

## UTILITY MODEL

(11)Publication number : JP 62-56024 U

(43)Date of publication of application : 07.04.1987

(51)Int.Cl.

A61F 13/02 A61L 15/03

(21)Application number : 60-148757

(71)Applicant : Aso Seiyaku Kabushiki Kaisha

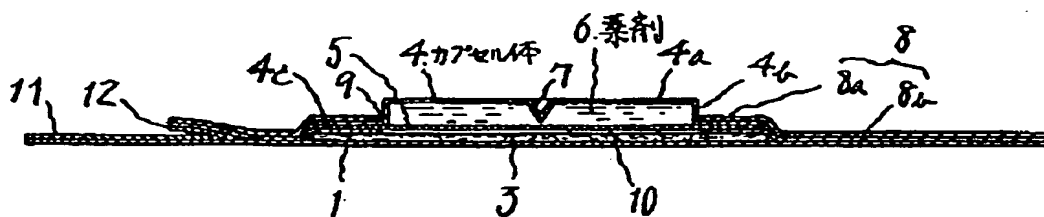
(22)Date of filing : 28.09.1985

(72) Creator: Shosho Murata

### (54) EMERGENCY COURT PLASTER

#### Outline:

The emergency court plaster comprises an adhesive sheet 1, a pad 3 such as gauze, a capsule body 4 having a liquid drug 6 therein, a thin film 5, a projection 7 closing with the thin film 5. In using, when the user presses the projection 7 to break the thin film 5, the pad 3 gets wet with the liquid drug 6.



BEST AVAILABLE COPY

# 公開実用 昭和62- 56024

⑩ 日本国特許庁(JP)

⑪ 実用新案出願公開

⑫ 公開実用新案公報(U)

昭62-56024

⑬ Int.Cl.<sup>4</sup>

識別記号

庁内整理番号

⑭ 公開 昭和62年(1987)4月7日

A 61 F 13/02

B-6737-4C

A 61 L 15/03

6779-4C

審査請求 有 (全 頁)

⑮ 考案の名称 救急用絆創膏

⑯ 実 願 昭60-148757

⑰ 出 願 昭60(1985)9月28日

⑱ 考 案 者 村 田 尚 昭 熊本県菊池郡菊陽町津久礼94

⑲ 出 願 人 阿 蘇 製 薬 株 式 会 社 熊本県菊池郡菊陽町津久礼91番地1

⑳ 代 理 人 弁 理 士 江 口 俊 夫

## 明 細 書

### 1. 考案の名称

救急用絆創膏

### 2. 実用新案登録請求の範囲

粘着シート(1)の上面中央部に貼着したパッド(3)上に、底面がアルミ箔等の薄膜片(5)で形成され、且つ内部に薬剤(6)を封入してなるカプセル体(4)を載置すると共にこのカプセル体(4)を前記粘着シート(1)に剥離可能に貼着した剥離紙(8)により固定してなる救急用絆創膏において、該剥離紙(8)を表裏2枚の重合剥離紙8a、8bで形成し、表側剥離紙8aに前記カプセル体(4)を挿嵌させた保持孔(9)を設けると共に裏側剥離紙8bに薬剤通孔10を穿設し、さらに、カプセル体(4)の底部周縁にフランジ部4cを設けて該フランジ部4cを表裏剥離紙8a、8b間に挟持させてなる救急用絆創膏。

### 3. 考案の詳細な説明

(産業上の利用分野)

本考案は内部に薬剤を封入したカプセル体を配設している救急用絆創膏に関するものである。

(従来 of 技術)

従来から、救急用絆創膏としては種々のものが考案されており、例えば、粘着シートの上面中央部に薬剤を含浸、乾燥させたガーゼ等のパッドを貼着し、その上面を左右に分離可能な剝離紙で被覆してなる絆創膏が広く使用されているが、このような構造の絆創膏によれば、薬剤がパッドに含有されているにも拘わらず、乾燥状態になっているために、創傷口を傷める虞れがあるばかりでなく、創傷面に当接しても、創傷部からの分泌物によってパッド部の薬剤が溶出してこない限り、有効な消毒殺菌効果を得ることができないものである。

このため、本願考案者等は、実願昭58-156260号に示すように、粘着シートの上面中央部に貼着したパッド上に、底面がアルミ箔等の薄膜片で形成した適宜形状のカプセル体を配設して使用時に該カプセル体の上面を押圧することにより、薄膜片を破壊させて薬剤をパッド上に含浸させるように構成した救急用絆創膏を考案した。



(考案が解決しようとする問題点)

しかしながら、カプセル体をパッド上に定置させるには、粘着シートに貼着した剝離紙の中央部にカプセル体の保持孔を設けてカプセル体の外周縁部を該保持孔の周辺部により単に押さえただけの構造であるため、カプセル体が妄動して不安定であるばかりでなく、カプセル体周辺部の粘着シート部分に対する剝離シートの密着力のみでカプセル体を保持している状態であるから、カプセル体に対する保持力が極めて弱くて僅かな外力により該密着部が剝離し、カプセル体が離脱するという問題点があった。

又、使用時に、カプセル体を押圧する前に剝離紙を剥がすと、カプセル体が不測に落下し、取扱い上にも問題点があった。

本考案はこのような問題点に鑑みてなされたもので、カプセル体を安定した状態でパッド上に保持すると共に剝離紙を剥がしても離脱、落下する虞れのない救急用絆創膏を提供するものである。

(問題点を解決するための手段)

上記目的を達成するために、本考案の救急用絆創膏は、実施例に対応する図面に示すように、粘着シート(1)の上面中央部に貼着したパッド(3)上に、底面がアルミ箔等の薄膜片(5)で形成され、且つ内部に薬剤(6)を封入してなるカプセル体(4)を載置すると共にこのカプセル体(4)を前記粘着シート(1)に剥離可能に貼着した剥離紙(8)により固定してなる救急用絆創膏において、該剥離紙(8)を表裏2枚の重合剥離紙8a、8bで形成し、表側剥離紙8aに前記カプセル体(4)を挿嵌させた保持孔(9)を設けると共に裏側剥離紙8bに薬剤通孔100を穿設し、さらに、カプセル体(4)の底部周縁にフランジ部4cを設けて該フランジ部4cを表裏剥離紙8a、8b間に挟持させてなるものであり、剥離紙(8)にカプセル体(4)を取付けたことを特徴とするものである。

(実施例の説明)

本考案の実施例を図面について説明すると、(1)は長方形状の布、プラスチックフィルム、或いは不織布等の上面に粘着剤(2)を塗布してなる粘着シートで、その上面中央部にガーゼ等のパッド(3)を

貼着してある。

(4)はその上面4aから周壁4bに亘ってプラスチックフィルム片より形成された矩形状のカプセル体で、その下端開口部をアルミ箔やグラシン紙等の薄膜片(5)で閉止し、この薄膜片(5)の外周上面を、前記周壁4bの下端外周に水平方向に延設した前記プラスチックフィルムよりなるフランジ部4cの下面に接着剤等により一体的に貼着してなり、内部には殺菌消毒液等の薬液又は鎮痛剤、止血剤等の薬液剤(6)を充填、封入してある。

(7)はこのカプセル体(4)の上面4aの中央部に下方に向かって膨出、形成した円錐形状、角錐形状等の断面V字状の突起で、その尖鋭な下端を薄膜片(5)の上面中央部に接触又は近接させてある。

(8)は粘着シート(1)の一端部を除く粘着面に剝離可能に貼着した剝離紙で、紙又は柔軟なプラスチックフィルムよりなる表裏2枚の剝離紙8a、8bをラミネート(重合接着)してなり、裏側剝離紙8bの下面全面にシリコン層等の剝離層を設けて該下面を前記粘着シート(1)の粘着面に剝離可能に仮接

着してある。

又、粘着シート(1)上に貼着した前記パッド(3)の上面中央に当接する該剥離紙(8)の部分において、表側剥離紙8aには前記カプセル体(4)の平面形状と略同大、同形の保持孔(9)を穿設している一方、裏側剥離紙7bには該保持孔(9)に合致させて保持孔(9)と同大、同形の通孔10を穿設してあり、カプセル体(4)のフランジ部4cはこれらの表裏剥離紙8a、8b間に挟持されていると共に該フランジ部4cに連なる周壁4bを保持孔(9)に挿嵌させ、該保持孔(9)を通して上方に突出させてある。さらに、カプセル体(4)の薄膜片(5)は裏側剥離紙7bに設けた前記通孔10を通じてパッド(3)の上面中央部に臨ませてある。

11は粘着シート(1)の一端部上面に剥離可能に貼着した一端部剥離片で、前記剥離紙(8)と同一材料で形成されており、その内端部を適宜巾、上面側に折り返し重合させ、その折り返し端部12上に前記剥離紙(8)の対向内端部を接着することなく重合させてある。

このように構成した救急用絆創膏は、使用に際



して、まず、カプセル体(4)の上面を押圧して該上面4aを僅かに下方に撓めると、該上面中央からカプセル体(4)内に突設した突起(7)により薄膜片(5)の中央部が破壊され、この状態からさらにカプセル体(4)を押圧、変形させれば、該カプセル体(4)内の薬剤(6)が薄膜片(5)の破壊部から裏側剥離紙8bの通孔(10)を通してパッド(3)の中央部に含浸、付着するものである。

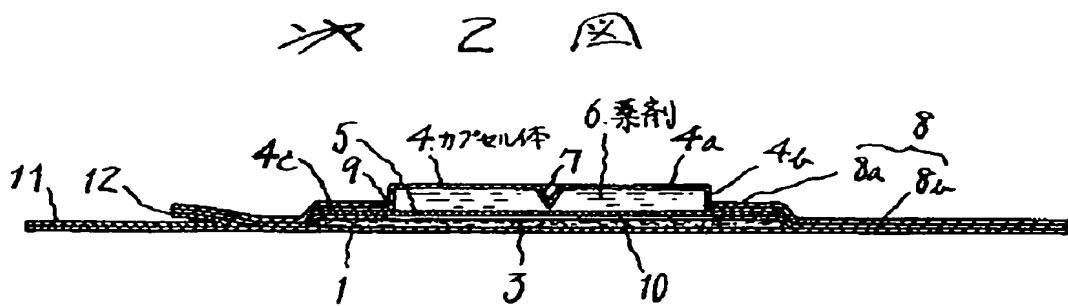
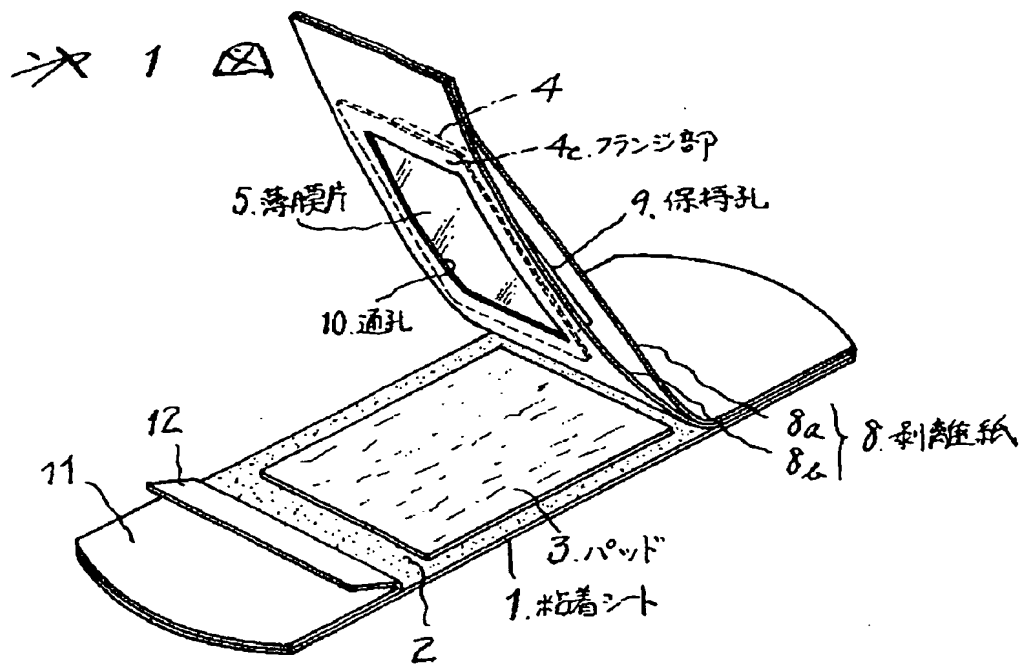
この時、パッド(3)に含入、拡散した薬剤(6)は裏側剥離紙8bの下面側に達するが、該裏側剥離紙8bの下面にはシリコン層等の剥離層を設けているので、この剥離紙側に付着しなく、全ての薬剤がパッド(3)に円滑に含浸する。

こうしてパッド(3)に薬剤を含浸させれば、剥離紙(8)を剥離してパッド(3)を創傷部に当てがい、粘着シート(1)を該部周辺に貼着するものであるが、剥離紙(8)の剥離時には、前述したように、粘着シート(1)の一端部に貼着した剥離片11の内側折り返し端部12上に剥離紙(8)の内端部を重ね合わせているので、該内端部を摘んで剥離紙(8)及び剥離片11

を容易に剥離できるものであり、剥離後、空になった前記カプセル体(4)を剥離紙(8)と一体にした状態で捨て去ることができるものである。

(考案の効果)

以上のように本考案の救急用絆創膏によれば、薬剤(6)を封入しているカプセル体(4)を粘着シート(1)に貼着したパッド(3)上に配設すると共に粘着シート(1)の粘着面に剥離紙(8)を貼着してなる救急用絆創膏において、該剥離紙(8)を表裏2枚の重合剥離紙8a、8bで形成し、表側剥離紙8aに前記カプセル体(4)を挿嵌させた保持孔(9)を設けると共に裏側剥離紙8bに薬剤通孔(10)を穿設し、さらに、カプセル体(4)の底部周縁にフランジ部4cを設けて該フランジ部4cを表裏剥離紙8a、8b間に挟持させてなるものであるから、カプセル体(4)が剥離紙(8)に一体的に取付けられて妄動したり剥離紙(8)から外れたりする虞れは全くなく、携行や取扱いに便利であると共に、表側剥離紙8aに穿設した保持孔(9)にカプセル体(4)が挿嵌しているので、このカプセル体(4)の底面を形成した薄膜片(5)を裏側剥離紙8bに穿



232

代理人 弁理士 江口 俊夫